

講義名	ホテル事業計画論			授業形態	
担当教員	久保 泉	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

本授業では、ホテルを「サービスの場」ではなく一つの事業として計画・設計される存在として捉える。ホテル産業の歴史、所有・経営・運営の構造、ブランド、立地、行政・法制度、地域社会との関係を通して、なぜその場所に、どのようなホテル事業が成立するのかを多角的に考察する。新聞報道や実際の開発事例を用いながら、ホテル事業計画に必要な構造理解力と意思決定の視点を養う。

到達目標

1. ホテル事業を、投資・経営・運営・制度の観点から説明できる。
2. ホテルブランドと経営主体の違いを理解し、事業構造を整理して説明できる。
3. 行政・地域社会との関係を踏まえ、ホテル事業計画の課題と可能性を論理的に述べることができる。

提出課題

毎回授業後にミニットペーパーの提出を求めます。
期末レポート(ホテル事業計画の視点から論述、1000字程度)の提出を求めます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出されたミニットペーパーの中から質問、コメントに対して、次回授業においてフィードバックします。

評価の基準

ミニットペーパー(40%)、期末レポート(40%)
以下の点において評価します。
・授業で取り上げたキーワードを正しく理解し、述べられているか。
・課題に対して自分自身の考えが論理的に述べられているか？

授業における積極的な発言(質問、意見等)を歓迎し、評価する。(20%)

履修にあたっての注意・助言他

この授業はホテルのサービスについて学ぶ授業ではなく、そもそもホテルがなぜそこに建っているのか、を理解することを目的としています。将来、宿泊業界での活躍を検討している学生は、宿泊業界の理解を深めるためにも、是非履修して頂きたい。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

教員作成の資料に基づいて授業します。

授業計画

1. イントロダクション
ホテル事業計画とは何か。本授業の目的と全体像を理解する。
予備内容：シラバスを読み、本講義の主題、授業概要、(到達目標等)を理解した上で出席する(120分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(120分)
2. 世界のホテル発展の歴史
ホテルがどのような社会的要請のもとで事業化されてきたかを理解する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
3. 日本のホテル発展の歴史
日本におけるホテルの役割の変化と事業目的を考察する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
4. ホテルの所有・経営・運営の分離
ホテルブランド(看板)と経営会社が必ずしも一致しないことを理解する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
5. 外資系ホテルの日本市場参入
外資系ブランドが日本市場に参入する背景と事業戦略を理解する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
6. 所有者の視点から見たホテル事業
投資主体の目的や立場の違いが事業計画に与える影響を考える。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
7. ホテル開発と地域社会
ホテル開発をめぐる住民との係争事例を通じ、事業計画段階における合意形成と社会的受容の重要性を理解する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
8. チェーンホテルの機能とブランド
なぜホテル事業ではブランドが重視されるのかを理解する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
9. 立地によるホテル事業計画と収益構造
立地による需要の違いと、ホテルの収益構造の違いを理解する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
10. 行政とホテル事業計画
神戸市役所庁舎にホテルが入居する事例を通じ、行政と民間が連携してホテル事業を計画する意味を考察する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
11. ホテル事業関連法規と新しい宿泊形態
規制緩和によって生まれた「街ごとホテル」「1棟貸切」などの事例を理解する。
予備内容：事前に提示する資料等に目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組み(180分)
12. ホテル事業の多様化
宿泊以外へ広がるホテル事業の可能性を考察する。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目では、ホテル事業を所有・経営・運営の構造や制度・地域との関係から捉える力を育成する。これにより、ホテルやリゾート関連企業の就業現場において自ら思考し、事業の本質を踏まえた新たな付加価値を創出できる能力の涵養を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義中にresponを活用して、履修生から意見、コメントを広く集めることがある。
課題の提示および提出にICTを使用する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
教員はホテル運営現場(宿泊部門、営業部門、管理部門)経験、およびチェーンホテル本部における海外ホテル運営管理業務に携わった実務経験に基づいて、ホスピタリティ、サービス、宿泊事業等に関する学生の学修意欲に応える。

備考

14回授業は外部講師の都合により授業計画を変更する可能性がある。